

研究主題

児童が自信をもってコミュニケーションを図ろうとする 外国語の授業づくり

～楽しみながらやりとりできるような活動を通して～

外国語で話すのって
自信ないなあ。

自信をもってコミュニケーションを
とろうとする力



外国語って難しそうし、
やりたくないなあ。

進んで学習しようと
する力

< 研究仮説 >

外国語活動における目指す児童の姿を明確にして、楽しみながら意欲的に外国語と向き合うように課題を設定することで、自信をもってコミュニケーションを図ろうとする児童を育成できるのではないか。

< 目指す児童像 >

低学年	中学年	高学年
<ul style="list-style-type: none">外国語に興味をもち、自ら進んで学習することができる。外国語の音声やリズムに慣れ親しみ、友達と楽しんで学習に取り組むことができる。	<ul style="list-style-type: none">体験的な活動を通して、進んで学習に取り組むことができる。外国語の音声やリズムを感じ、フレーズを選択して友達とコミュニケーションをとることができる。	<ul style="list-style-type: none">既習事項を生かしながら、進んで学習に取り組むことができる。対話的なコミュニケーション活動を通して、自分の意志で対話し、相手のことを理解しようとする。

< 研究の視点 >

自信をもって楽しく活動するための学習過程を工夫する。

(課題をつかむための工夫)

コミュニケーションを活発にするための活動を工夫する。

個別の指導を工夫する。

ユニバーサルデザインの視点・実現

- ・環境作り(授業展開の確立及び流れの板書、机の配置の工夫など)
- ・人間関係を構築するアクティビティの設定
- ・めあてから振り返りを大切にする授業作り



1 単位時間の授業の流れ

活動内容	活動内容の具体例
Greetings (あいさつ)	・挨拶、日付、曜日、天気の確認など。
Song (歌)	・挨拶や、色など身近な題材に関する歌などを選ぶ。 ・体を動かしながら歌うことで、体の部位などの名称を覚える。
Warm up (既習事項の復習等)	・毎時間「コミュニケーションのポイント」を振り返ることで、活動をする上で大切な点を明確にして活動に取り組めるようにする。 ・これまでに学習したキーワードや単語等を復習する。 ・ゲームなどで外国語に慣れ親しむ活動をする。
Today's topics (本時のめあて)	・できる限り、教師が説明するのではなく、身近な題材から「本時のめあて」を設定できるようにする。
Chants (キーフレーズを繰り返し練習する)	・本時のめあてから設定したアクティビティで使用するキーフレーズをリズムに合わせて繰り返し練習し、定着を図る。
Activity (本時のメインとなる活動内容)	・日常的で身近な内容になるように活動を設定する。 ・その活動で自らが友達と関わり合い、英語を話すことを通して意欲的に関わりがもてるような内容にする。 ・「やりとり」または「発表」の活動となるように設定をする。自信をもってコミュニケーションをとれるようにするため、Chantsなどでキーフレーズの定着を確実にしておくことが望ましい。
Wrap up (振り返り)	・低学年は口頭や、フェイスマーク等で振り返りを行い、中学年はワークシートに文章で書き込み、高学年はワークシートに書き込んだ後、英語でA L Tから振り返りを行う等の発達段階に応じた振り返りの仕方を工夫する。 ・「コミュニケーションのポイント」に注意して活動に取り組むことができたか振り返るようにする。
Greetings (あいさつ)	・終わりの挨拶をする。 ・「Good bye song」などの歌を使って外国語表現に慣れ親しむのも効果的である。

コミュニケーションのポイント

B...Best voice (ちょうどよい声で)

E...Eye contact (相手の目を見て)

S...Smile (笑顔で)

T...Try (全力で)



『Let ' s greet ! (挨拶をしよう)』

平成 3 0 年 9 月 1 9 日 (水) 5 校時 (3 / 3 時間目)

授業者 熊田慈子 (HRT)

< 単元の目標 > 英語を聞いたり真似したりしながら活動を楽しみ、挨拶などの簡単なコミュニケーションを図ることができる。

授業の様子 開一版小学校英語教育の構築へ

1 年生が英語の挨拶とともに、お気に入りの自作絵入りの色札を交換交流しました。英語支援の先生が話すと、なじみのある色の英語は「ウレッドゥ (赤) ・ ウワイツ (白) ・ イヤロゥ (黄) ・ ブル〜ッ (青)」(! ?) のように聞こえます。子供たちからは「すごいつ」「うますぎ」などが漏れ、自然に発音を取り入れていました。

まとめ段階の発表である「あいさつゲームが増えて、進化しました。」「進化気分です。」というように前の時間に比べて、交流の段階が上がっていることを実感するとともに、「もっとやりたいです。」と前へ進む子供たちです。

Activity

あいさつゲーム

「I ' m ~」のフレーズを使い友達とあいさつをしました。握手をしたりカードを交換したりと少しずつ変化を加えながら繰り返し取り組みました。

渡すカードに自分で絵を描くことで、友達と交換したいという意欲をより高めることができました。

Thank you.

Here you are.



Pick up

友達と関わるのが苦手だった A さん・・・繰り返し取り組む中で、自分から友達に話しかけていく様子も見られるようになりました。

担任からの個別の声かけや、繰り返し取り組む学習が安心感と自信につながっていききました。

授業づくりの工夫

コミュニケーションのポイントを、低学年でも分かりやすくするために、簡単な絵で表しました。

活動の始まりや振り返りの場面でも、コミュニケーションポイントを意識して取り組めるようにしました。

2年生

『What ' s this? (これは何でしょう。)』

平成30年11月21日(水)5校時 (3/3時間目)

授業者 村上 みずほ(HRT) Sierra Eaton (ALT)

<単元の目標> 「これは何でしょう。」と尋ねた表現をもちいて、ゲームやクイズを楽しみながら友達と簡単なコミュニケーションを図る。

授業の様子 開一版小学校英語教育の構築へ

2年生は“ What ' s this? ”と「動物の言い方」を使って、交流活動に臨みました。ライオン、ケンゲルー、ラビッツ、マンキィ、スネィカ、グリッフ~(!?)が登場。子供たちの聞き取りは柔軟です。「もっと動物の名前を知りたいです。」と世界を広げようとします。

ゲス・シンキング、キーワードゲーム、穴あきクイズ、ジェスチャークイズなどの多彩な活動で“やりとり”のプラットホームに立つ子供たちです。

Activity

穴あきクイズ・ジェスチャークイズ

「What ' s this?」のフレーズを使い友達とクイズを出し合いました。

2種類の穴あきカードを準備して徐々に難易度を上げたり、ジェスチャークイズに入る前に動物進化じゃんけんをしたりして段階を踏むことで児童が楽しく自然に話せるように工夫しました。

Lion!

What's this?



Pick up

はじめは英語を話すことに不安を感じていたBさんもクラスルームイングリッシュで、挨拶やありがとうの言葉を英語で使ううちに徐々に話すことができるようになりました。

また、授業の際には、発音メモや手順をもたせ支援を行いました。

授業づくりの工夫

Warm upの際に毎時キーワードゲームを行うことで、動物の名前を楽しく覚えることができました。

Activityの前には、何度もデモンストレーションを見せることで、児童が自信をもって活動に取り組めるよう工夫しました。

3年生

『How many? (いくつと尋ねよう。)』

平成30年6月21日(木)5校時 (3/3時間目)

授業者 佐藤 宗矢(HRT)

<単元の目標> 日本と外国の数の数え方の違いから、多様な考えがあることに気付くことができる。

授業の様子 開一版小学校英語教育の構築へ

新コミュニケーションツールを使って、数を当てる「How many? ゲーム」などで交流しました。英語の数表現が徐々に体に染みこんでいきます。

まとめ段階の発表である「1～10の言い方に気を付けました。」「発音に気を付けて言いました。」というように、英語の言い方に興味をもつとともに、「いっぱいの人と当てっこできた。」「自分に気付いていない人にも自分から声をかけた。」ように、かかわりを広げようとした子供たちです。

Activity

How many? ゲーム

「Hello!」と友達にあいさつをしました。その後にじゃんけんをし、勝ったら相手に質問しました。負けた方は相手のナンバーを予想し英語で答えました。

何度も繰り返しやりとりすることにより、相手のナンバーを当てたいと学習に意欲的に取り組む姿がたくさん見られました。

How many?

Fifteen?



Pick up

外国語に少し戸惑い、自分の意見や発言をすることができないCさんもキーワードゲームで繰り返し数字を言う活動をする事により自信をもち、Activityにも意欲的に取り組むことができました。

クラスの友達と何度も外国語で会話をするうちに自分から話しかけたり、会話を楽しんだりしました。

授業づくりの工夫

Activityを二つ用意しました。二つ目の活動は、一つ目の活動を踏まえて発展的な活動とすることで、フレーズを繰り返し練習することができました。それにより、安心して意欲的に活動に取り組むことができました。一つ目と二つ目で差をつけることで、目的意識をもって活動できました。

『What do you want? (何が欲しいですか。)』

平成31年1月25日(金)5校時 (3/4時間目)

授業者 宮城千明(HRT)

<単元の目標> 「何が欲しいですか。」と尋ねる表現に慣れ親しみ、それを伝えたり答えたりする活動を通して、相手に思いを伝えようとする。

授業の様子 開一版小学校英語教育の構築へ

Want を使ったやりとりで、お気に入りのフルーツシールパフェをつくりました。聞き取ったことを確認して、目を見て、うれしそうに、手で数を示して、仕草をつけて、ともに喜びや驚きの声を上げて...

「たくさんのフルーツをのせられて、たくさんの果物の名前を覚えました。」「お店で何が欲しいかとか、何個ほしいか聞けました。」「お店の人が言う英語もお客さんが言う英語も忘れずに言えました。」英語のシャワーをたくさん浴びて、友だちとのかかわりに自信をもつ子供たちです。



Activity

お店屋さんゲーム

「What do you want?」のフレーズを使い友達とお店屋さんごっこをしました。欲しいフルーツと個数を尋ねられ、丁寧にやりとりを行うことがねらいです。

お店屋さんごっこで使うフレーズをチャンツで何回も練習することで、児童が必然性を感じると共に、安心して活動に取り組むことができるように工夫しました。

What do you want?
I want melons.

How many?
Two, please.



Pick up

英語でのやりとりに不安を感じているDさんに対して二つの手立てが有効でした。

1点目は、お店屋さんごっこで使うフレーズを何度も繰り返して練習したことです。

2点目は、机の配置を工夫することで隣の人のやりとりを参考にできることです。

二つの手立てで安心して活動できました。

授業づくりの工夫

複雑な活動になるお店屋さんごっこ。総合の学習で机を円の形にしての発表を行った経験を生かして、本時では机を二重の「コ」の字型に配置し、外側をお店役、内側をお客役としました。やりとりの後、お客役が隣の席にずれて、計4回やりとりができるようにしました。

『I can ~ . (できることを紹介しよう。)』

平成30年10月11日(木)5校時 (4/4時間目)

授業者 岡本 至(HRT) Sierra Eaton(ALT)

- <単元の目標> ・自分や他者のできることやできないことを聞いたり言ったりすることができる。
・他者に配慮して、自分のできることやできないことなどを紹介し合おうとする。

授業の様子 開一版小学校英語教育の構築へ

これまでの出会いのあいさつや誕生日の言い方に加えて、“Can”を使って得意なことを交流しました。じゃんけんや歌、“やりとり”シャワーで心を開いた後、学級の友達に新たな自分を伝えます。「英語が思い浮かばないことがあったけれど、楽しく自己紹介ができてよかったです。」「友達のいろいろなできることや得意なことを知ることができて、よかったです。」「少しとまどったけれど、笑顔で会話ができました。」「知らない人とも会話ができるようになりたいです。」これらは子供たちがつかんだ人とつながる宝です。言葉を越えて伝え合おうとする子供たちです。

Activity

自己紹介ゲーム

「I can ~.」「Can you ~?」を中心に自分のできることを伝え合いました。既習事項の表現も加えながら自分から友達に話しかけ、多くの友達とやりとりしました。ALTとのデモンストレーションを見たあと、自己紹介カードを見ずに、相手の目を見ながら、自分のことを自信をもって表現することができました。初めて学習する英語をたくさん活用して、笑顔で積極的に楽しく活動していました。

I can swim.
I can't fly.
Can you swim?

Yes, I can.



Pick up

授業の中で積極的に多くの友達とあまり関わろうとしないEさん。事前に英語で書いた自己紹介カードをもとに、「I can ~.」を練習し、自己紹介のやりとりを何度も行うなかで、少しずつ自分から英語でコミュニケーションをとることができるようになりました。繰り返すことで自信につながりました。

授業づくりの工夫

自己紹介として自分のできることを伝えるだけでなく、「Can you ~?」のフレーズを取り入れることによって、英語での言葉のキャッチボールをより活発にし、友達のできることもお互い知ることができました。

6 年生

『This is Me! (自己紹介をしよう。)』

平成30年5月23日(水)5校時 (6/6時間目)

授業者 三井 大輔(HRT) Sierra Eaton (ALT)

<単元の目標> 自己紹介に関する表現や好きなこと、できることなどを聞いたり言ったりすることができる。

授業の様子

23日(水)は6年生が新コミュニケーションツールに親しみながら、自己紹介活動をしました。「ウーマン、会話やろう、ウーマン」などと名刺交換に積極的。Who am I?クイズで、学級のみんながつながる時間になりました。

まとめの段階で発表された「今日はアイコンタクトをがんばった。」「意味がわかってもらえるようにきちんと伝えた。」のように、交流技能の要点をおさえた子供たちです。

Activity

自己紹介ゲーム

好きな物やできることなどを友達に英語で自己紹介しました。

自己紹介をしたら、お互いにオリジナル名刺を交換することで意欲的に活動することができました。

慣れ親しんだフレーズを用いた自己紹介のメモを持たせることで、どの子も安心し、自信をもって活動に取り組むことができました。

Hello, my
birthday is~.

Thank you.



Pick up

普段から発表などに自信がなく、積極的に友達と交流することができていなかったFさん。

ゲームの最初は声も小さかったのですが、数を重ねるうちに自信がついたのか少しずつ声が大きくなり、はっきりと話すことができました。

授業づくりの工夫

子供が進んで活動できるような曲やゲームを工夫しました。

自己紹介ゲームでは、子供たちが作成したオリジナルの名刺を集めることで、楽しさを感じながら活動に意欲的に参加することができました。